

中学校区におけるめざす子ども像 失敗を恐れずに自分で考えて決断できる子～自分からチャレンジ！そして未来を切り拓く～

**令和7年度 重点目標**  
学校教育目標の「自分らしく輝く子ども」を「自ら問題を発見し、仲間とともに解決しようとする主体的な子ども」と捉え、誰一人取り残さない安心・安全で楽しい学校、子どものよさを伸ばす教育を行うため「『自分で学びを進める』と『互いを理解する』『自分からチャレンジする』」を本年度も重点目標とする。そのため、教職員が子ども理解に努め、子どもが自ら学びをつくる授業の実現をめざし、問題解決的な授業を行うとともに、お互いを理解し支え合う仲間づくりに取り組む。学校全体で課題解決の実現に向かうため、教職員もお互いを知り、学年、各分掌、キャリア等で協働できる職場づくりを行う。自ら学び、発信し、お互いが学び合う人が育つ好循環をつくる。

<b>学びの現状</b> 令和6年度全国学力・学習状況調査では、国語でも算数でもどちらもその教科の授業は好きですかの質問で「好き」と答えた児童は全国を下回り「大切」と答えた児童は上回る。これらより国語・算数ともに大切だと思っているが、「好き」のデータが低いことから苦手意識をもっている児童が多いことが考えられる。自分の課題に対して自分で学び方を考え工夫することについては肯定的解答・否定的解答ともに全国より高い。これらのことから、自己の課題に向き合い自分に合った学びを進めていくことの指導が必要である。また国語の記述問題では「図・表やグラフ等を用い、自分の考えが伝わるよう書き表し方を工夫する」問題で無回答率が全国を下回る。そこで、今年度は、算数科「データ活用」領域を校内研究の柱とし、問題発見、解決の見通し、活動後の振り返りを大切に指導を積み重ねたい。	<b>「豊かな心・健やかな体」の現状</b> 体力面において、令和6年度には、ナイスランニング、ボール投げ、立ち幅跳び、リズム縄跳びなど、20分休憩にできる体力づくりに取り組んできた。「新体力テスト」の結果を見ると、種目にもよるが堺市の結果と同程度または、低い結果となっている。これまで縦割り活動が続けており、高学年が低学年を支える文化が根づいている。高学年はよきモデルとなり、同時に自己有用感を高める機会にもつながっている。さらに、約束を守る児童も多く、学習に熱心に粘り強く取り組む児童も多い。一方指示を待つ傾向もあり、自分で判断し、良いと思ったことは進んで取り組む力の育成が必要である。
--	--

項目	中項	具休目標	評価項目 (取組、成果・状態) (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	実状:実施状況…2月 学ア:学校アンケート…1月 児(教)児は児童(教師)の肯定的回答	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況 (年度末)					
									自己評価	学校関係者評価				
総合的な学力	自分で学びを進める子	個別・最適な学び協働的な学び授業改善	<b>【学習内容の定着】</b> 朝の学習で、ドリルパーク等を用いて基礎・基本を定着させたり個々に合わせて学習を進める。また、読書をする習慣を確立する。	ドリルパークを活用し、自分にあった復習を行う。本の借り換えや学級図書書を充実させ常に本が手に取れる状況にする。 テーマ・必要に応じ、関連する本を学年書籍として廊下に準備する。	実状	2月	○	ドリルパークを用いて隙間時間に自分の学習を自分で進めた。教科書に関連する本を準備したり図書室での読書も行った。	◎	ドリルパークを日常的に活用し、自分のペースで学習を進めた。本の借り換えや読書時間も計画的に確保し読書に親しむ習慣づくりを大切にした。研究授業では「データ活用」領域を扱い、図やグラフを用いて根拠をもって表現する力が高まった。前日の学びを振り返り、子ども自身がめあてを立てる問題解決的な授業を重ねた結果、算数が好きと答えた子どもは高学年で+9ポイント向上した。	◎	ジャンルを超えた本や学年書籍の整備、AI活用した自分のペースで進める学びもとても良い取組。算数の伸びも見られた。		
			<b>●【思考力・判断力・表現力の伸長】</b> 算数科「データ活用」領域の学習を中心に校内研修を進め、統計的な問題解決のよさに気づき、データやその分析結果を生活や学習に活用しようとする。	算数の勉強は好きですか <b>児青</b> 75%以上 図・表・グラフを使うと考えを交流しやすい <b>児青</b> 75%以上 図・表・グラフを使う機会を意図的に作る。	学ア 実状	1月 2月	○	棒グラフや折れ線グラフ、代表値の理解と活用など、これからの社会で必要となる統計的な学習について、子どもが自分で考えながら進められる授業を工夫している。	◎	問題の解く際に、これまでに学習したことが使えないかと考えている子どもは、高学年で 89%と高い。低学年は80%をわずかに下回るものの、既習事項を手がかりに自力で解決しようとする姿が少しずつ見られる。年間を通じて全学年で自主学習ノートに取り組むことができた。「調べてみたい」「なぜだろう」と考える子どもや、自分で計画を立てて学習していると答えた子どもも昨年を上回った。単元全体を見通して学習を進めたり、子どもにゆだねて授業を構成したりする機会を大切にすることで、自ら学習を進めようとする意識が少しずつはぐくまれていると考える。生活科・総合的な学習の時間では探究的な学習を重視した。1・2年生は「好き」と答えた子どもが96%、3年生以上でも85%であった。子どもが社会に関わり課題を見だし解決し、その成果を整理・分析、表現する学習を十分に行うことができた成果である。PCは日常使いの道具として定着しており、紙と鉛筆による思考の深まりとその良さを生かしながら学びを進めることで、情報活用能力の伸長も見られた。	◎	主体的な学習が増えるのはとてもよい。しかし、低学年から自主的に取り組むことは難しいので、指導することも大切にしていながら、段階的に力を伸ばしてほしい。反復練習が減り、家庭学習でできるかが学力差につながる懸念がある。PCを使い表裏力や身につけている。生活科や総合的な学習の時間には本物に出合い、学習が作られていて感心する。		
			<b>★【主体的な学び】 (学校群で行う)</b> 単元単位でねらいを明確にもち、問題意識の醸成・見通しを大切に授業づくりを進めることにより、子どもも教師も主体的な学びづくりに取り組む。学校群の取組を進める。	問題をとく時これまでに習った事が使えないか考えている <b>児青</b> 80%以上 見通しを自分で考え、自分の学びを振り返っている <b>児青</b> 80%以上 単元単位でねらいをもち「子どもが進める授業」を行う。 中学校群推進のための組織を編成し、部会ごとに取り組む。	学ア 実状	1月 2月	○	子どもの問題意識が、導入場面だけにとどまらず、授業の中盤や終盤でも持続し続けることができるような問いかけの工夫をしている。	◎	2年生から6年生まで週1回程度自主学習ノートに取り組むことができた。「普段から調べてみたい、なぜだろうと思うことがある <b>児青</b> 70%以上」と答えた児童は81%、「自分で計画を立てて勉強している」と答えた児童は77%だった。	○	子ども自身のペースで、必要に応じてPCを活用した。生活・総合的な学習の時間には、プレゼンテーションで表現活動を行った。各学年の情報活用能力伸長に取り組んだ。	◎	問題を発見すること、見通しを持ち活動すること、活動・調査内容を表現すること、振り返ることをどの学年も実施できた。
			<b>【家庭学習】</b> 自主学習ノートに取り組むことにより、興味・関心を広げたり学んだことを深めたりする。自主学習ノートの取り組みを紹介する場を設定する。	全学年で週1回程度自主学習ノートに取り組む。 普段から調べてみたい、なぜだろうと思うことがある <b>児青</b> 70%以上 自分で計画を立てて勉強していますが <b>児青</b> 70%	実状 学ア	2月 1月	○	子ども自身のペースで、必要に応じてPCを活用した。生活・総合的な学習の時間には、プレゼンテーションで表現活動を行った。各学年の情報活用能力伸長に取り組んだ。	◎	問題を発見すること、見通しを持ち活動すること、活動・調査内容を表現すること、振り返ることをどの学年も実施できた。	◎	ナイスランニングやリズム縄跳び、大縄など、様々な体力向上の取組を実施することができた。4月と10月の発育測定時には、各学年に応じ、健康講話を実施した。野田小学校栄養教諭も1学年を残すすべての学年で栄養講話を実施した。	◎	体力は学力以上に大切だという見方もあろう。ぜひとも取組を継続してほしい。スマホとの関わりも気になる。健康面の指導も大切に行ってほしい。
			<b>【児童のPCの活用】</b> さまざまな場面で児童用タブレットを使い、堺市情報能力チェックリストをもとに各学年情報活用能力の伸長を図り、効果的に活用できるようにする。	週3回以上、授業で児童が1日10分以上PCを活用する。 高学年児童は、週1回以上持ち帰りを行う。 堺市情報活用能力チェックリストを元に、各学年で設定されている情報活用能力の取組を実施する。	実状	2月	○	子ども自身のペースで、必要に応じてPCを活用した。生活・総合的な学習の時間には、プレゼンテーションで表現活動を行った。各学年の情報活用能力伸長に取り組んだ。	◎	問題を発見すること、見通しを持ち活動すること、活動・調査内容を表現すること、振り返ることをどの学年も実施できた。	◎	生活アンケートを1・2学期に実施した。アンケートの際には、学校全体にいじめの講話も行った。同時に、アンケートだけでなく全児童からの聞き取りも実施した。	○	子ども全員が担任と話す機会があることは評価できる。教職員が常に子どもに寄り添う姿が見られる。3年生以上は「相談しやすい」肯定的回答73%であり、引き続きいじめ・不登校指導・見守りを継続してほしい。
			<b>●【カリキュラムマネジメント】</b> 調べたい課題を持ち、さまざまな調査方法で調査し、わかったことや思ったことを発表する活動を行う。その際、学んだことが生かせるように工夫をする。	生活・総合的な学習の時間が好きですか <b>児青</b> 80%以上 子どもの問題意識を大切に探究のサイクルを回す。 自分から積極的に英語を使って話してみようと思う <b>児青</b> 84%以上	学ア 実状	1月 2月	○	生活アンケートを1・2学期に実施した。アンケートの際には、学校全体にいじめの講話も行った。同時に、アンケートだけでなく全児童からの聞き取りも実施した。	○	生活アンケートを1・2学期に実施した。アンケートの際には、学校全体にいじめの講話も行った。同時に、アンケートだけでなく全児童からの聞き取りも実施した。	○	学年で複数数体制により事実確認を行い、組織的に対応した。1・2年生では「相談しやすい」と答えた児童が増したが、3年生以上は73%にとどまり、引き続き丁寧な声かけが必要である。また、PC活用やクリスマス作り(1・6年)、町探検ミッションや折り鶴づくり(2・5年)、校外学習(3・4年)など異学年交流を実施した。縦割り活動でも遊びや挨拶運動、大縄を通してつながりを深めた。「自分にはよいところがある」と感じる子どもは81%、学校行事や児童会活動が楽しいと答えた子どもは90%を超えている。	◎	ふわふわ言葉や違いを認め合う取組はとてもよかった。スマホの普及で子どもの様子も多様化しており、各家庭での対応をさらに強化して伝える必要がある。
豊かな心・健やかな体	心身共に逞しい子	体力向上	<b>【体力づくり 持久力・コア向上】</b> 20分休憩の体力づくりを児童が主体となって年間を通して実施し教職員もともに参加する。特に、持久力向上のための取り組みを行う。	体力づくりに進んで参加している <b>児青</b> 80%以上 外で体を動かすことは好きですか <b>児青</b> 85%以上	学ア	1月	○	ナイスランニングを実施したり、リズム縄跳びや大縄を行ったりして、体力づくりの取組を実施できた。	◎	ナイスランニングやリズム縄跳び、大縄など、様々な体力向上の取組を実施することができた。4月と10月の発育測定時には、各学年に応じ、健康講話を行った。歯の健康や便のチェック、テレビゲームやスマホの向き合い方についての指導に加え、かかとと骨の関係、睡眠・休養・食事の大切さについても指導した。また、食育アプリを活用して朝食の重要性について考える機会を設けた。食べ物のことを知るの楽しいと答えた子どもは84%であり楽しんで学べた。	◎	子ども全員が担任と話す機会があることは評価できる。教職員が常に子どもに寄り添う姿が見られる。3年生以上は「相談しやすい」肯定的回答73%であり、引き続きいじめ・不登校指導・見守りを継続してほしい。		
			<b>【健康な体づくり】</b> 自分の心身の健康を守るための話を継続的に言い、児童が主体となって健康を守るための活動に取り組む。栄養教諭と連携して各学年で食育の実践を行う。	1年に1回以上、健康診断の機会に健康講話を行う。 栄養教諭と食育を各学年1回以上行う。 食べ物のことや食べ方について知ることは楽しい <b>児青</b> 80%以上	実状 学ア	2月 1月	○	4月と10月の発育測定の際には、各学年に応じ、健康講話を実施した。野田小学校栄養教諭も1学年を残すすべての学年で栄養講話を実施した。	◎	生活アンケートを1・2学期に実施した。アンケートの際には、学校全体にいじめの講話も行った。同時に、アンケートだけでなく全児童からの聞き取りも実施した。	○	学年で複数数体制により事実確認を行い、組織的に対応した。1・2年生では「相談しやすい」と答えた児童が増したが、3年生以上は73%にとどまり、引き続き丁寧な声かけが必要である。また、PC活用やクリスマス作り(1・6年)、町探検ミッションや折り鶴づくり(2・5年)、校外学習(3・4年)など異学年交流を実施した。縦割り活動でも遊びや挨拶運動、大縄を通してつながりを深めた。「自分にはよいところがある」と感じる子どもは81%、学校行事や児童会活動が楽しいと答えた子どもは90%を超えている。	◎	ふわふわ言葉や違いを認め合う取組はとてもよかった。スマホの普及で子どもの様子も多様化しており、各家庭での対応をさらに強化して伝える必要がある。
	生活をよくしようとする子	安心安全な学校・学級	<b>【いじめ・不登校】</b> 一人ひとりにあった「居場所と出番」のある学級集団をつくる。いじめが起った際には、いじめ対策基本方針に則り適切に対処する。普段から子どもの話を聞き、不登校防止に取り組む。教育相談を申し込みやすい環境づくりを推進する。	生活をよりよくするアンケートを年3回実施する。 年3回アンケート回答について、全ての子どもの思いを尋ね対応する。子どもの状況を子ども支援委員会でも共有し必要に応じ相談につなぐ。困った時だれかに相談しやすい <b>児青</b> 70%	実状 学ア	2月 1月	○	生活アンケートを1・2学期に実施した。アンケートの際には、学校全体にいじめの講話も行った。同時に、アンケートだけでなく全児童からの聞き取りも実施した。	○	学年で複数数体制により事実確認を行い、組織的に対応した。1・2年生では「相談しやすい」と答えた児童が増したが、3年生以上は73%にとどまり、引き続き丁寧な声かけが必要である。また、PC活用やクリスマス作り(1・6年)、町探検ミッションや折り鶴づくり(2・5年)、校外学習(3・4年)など異学年交流を実施した。縦割り活動でも遊びや挨拶運動、大縄を通してつながりを深めた。「自分にはよいところがある」と感じる子どもは81%、学校行事や児童会活動が楽しいと答えた子どもは90%を超えている。	○	子ども全員が担任と話す機会があることは評価できる。教職員が常に子どもに寄り添う姿が見られる。3年生以上は「相談しやすい」肯定的回答73%であり、引き続きいじめ・不登校指導・見守りを継続してほしい。		
			<b>【異学年交流】</b> 全校で縦割り活動、清掃活動、校外学習等々、異学年による関わりの機会を増やし、自己有用感を育む。キャリアパスポートを活用し自分のよさに気づけるようにする。	自分にはよいところがある <b>児青</b> 70%以上 どの学年も異学年交流に取り組む。 キャリアパスポートを工夫する <b>教青</b> 80%以上	実状 学ア	2月 1月	○	縦割り活動を実施し、異学年でかかわる活動を行っている。6年生がリーダーとなり、どの学年も楽しめる遊びを考え実施した。ペア学年での活動も続けている。	◎	縦割り活動であいさつ運動を行った。委員会活動では学校の課題を見つけ学校改善のために活動することができた。	◎	学年全体で「ふわふわ言葉」を使おうという目標に取り組んだ。自分が使いたい言葉を一人1枚玄関に掲示し、かけてもらった言葉にお礼を伝える活動も行った。ふわふわ言葉を使ったと答えた子どもは93%で、年間を通して意識し続けることができた。また多文化共生研修を実施し様々な文化を尊重する必要性と具体的な対応について学んでいる。自分と異なる考えを受け入れようとする子どもは90%であった。困っている人がいると自分にできることを考えようとする児童も90%を超えている。	◎	ふわふわ言葉や違いを認め合う取組はとてもよかった。スマホの普及で子どもの様子も多様化しており、各家庭での対応をさらに強化して伝える必要がある。
仲間を理解し支え合う子	違いを認め合える仲間づくり～	<b>【人権教育】</b> 自国の文化だけでなく他国の文化、自分以外のものの考え方に触れたり、男女平等の取組、自分とは違う考え方に触れたりする機会をもち、自分らしさも大切に、友だちも大切に。「ふわふわの木」を作成し、ふわふわ言葉が日常的に使われる環境をつくる。	ふわふわ習慣に進んでふわふわ言葉を使っている <b>児青</b> 80%以上 普段から、ふわふわ言葉をつかっている <b>児青</b> 80%以上 クラスの友だちや先生など他の人の事をもっと知りたいと思う <b>児青</b> 80% 自分とは違う考えをうけ入れることができる <b>児青</b> 70%以上 他の国の文化に触れる機会を年1回以上もつ。 他の国の文化や行事を体験し、異文化のよさを感じる <b>児青</b> 90%	実状 学ア	2月 1月	○	学期に一回「ふわふわ言葉週間」を実施。ふわふわの木を全校児童で作成し、掲示することでふわふわ言葉の啓発に努めた。ハロウィンやクリスマスには、NSの先生による外国文化の授業を行った。	◎	各学年の発達段階に応じ、啓発授業や啓発活動を行った。教職員も支援学級を参観した。	◎	地域の人に関わる活動を実施し、地域のあたたかさに触れる機会をもった。見守り隊感謝の集いも全校集会で行った。地域が好きと答えた子どもは95%を超えた。	◎	地域が好きなお子もが多い。地域も協力していく。	
		<b>【特別支援教育】</b> それぞれの個性に気づき、違いを認め合える機会として、支援学級との交流会、啓発授業を行う。	まわりにこまっている人がいる時、自分にできることはないかを考えている <b>児青</b> 80%以上	学ア	1月	○	アイソナイト小交流会、折り鶴作り、縦割りなど、子どもの企画を実施した。町探検、野菜作りほか地域の人に関わる活動も行った。	◎	地域の人に関わる活動を実施し、地域のあたたかさに触れる機会をもった。見守り隊感謝の集いも全校集会で行った。地域が好きと答えた子どもは95%を超えた。	◎	地域が好きなお子もが多い。地域も協力していく。			
する子	地域を愛する子	地域協働	<b>【地域を知る】</b> 子どもの思いを大切に学校行事や児童会行事を行う。地域のよさを感じることができるときの機会を大切に。	学校の行事や児童会活動は楽しい <b>児青</b> 90%以上 この学校・地域が好き <b>児青</b> 90%以上	学ア	1月	○	アイソナイト小交流会、折り鶴作り、縦割りなど、子どもの企画を実施した。町探検、野菜作りほか地域の人に関わる活動も行った。	◎	地域の人に関わる活動を実施し、地域のあたたかさに触れる機会をもった。見守り隊感謝の集いも全校集会で行った。地域が好きと答えた子どもは95%を超えた。	◎	地域が好きなお子もが多い。地域も協力していく。		

校長より (年度末) 計画したことについては、すべて取り組むことができた。機会あるごとに学校の教育目標に触れ、子どもたちの目標として取り組むことができた。今後は、学校群を生かした取組につなげたい。学校関係者評価から (年度末) 学校は、子どもたちのことをよく考えて取組を行い、また、地域や保護者の声も取り入れ、本当によく頑張ってくださいありがとうございます。今年も1年ありがとうございました。